

膝や股関節の痛みを感じたら、我慢せずに受診を

人工関節手術を ロボットが支援 正確、安全性向上へ

年を重ねるにつれ、膝や股関節の痛みを感じていませんか。中高年以降に最も多い膝、股関節の病気が「変形性関節症」です。そのまま放置していると、痛みなどの症状が悪化し、歩けない、座れない、痛みで寝れないなど日常生活にも支障が出てきます。

この病気の原因や治療法などについて、膝の痛みを数多く診療してきた札幌南整形外科病院の木井雄一郎膝関節外科部長にお話を伺いました。

札幌南整形外科病院
膝関節外科部長

木井 雄一郎 先生

2005(平成17)年札幌医科大学医学部卒業。日本整形外科学会認定整形外科専門医。医学博士

企画制作／北海道新聞社営業局

歩く喜びを取り戻し、健康寿命を伸ばす

―― 脊髄や股関節が痛む主な原因は何ですか。

中高年以上の膝、股関節の痛みや違和感の変形性関節症によるものが大半です。私たちの関節は軟骨がクッションとなってスムーズに動くようにできていますが、その軟骨が加齢や肥満などが原因でもろくなり、欠けたり擦り減ったりして、周囲に炎症を起こします。立ち上がりや歩き始めなど、動作時の痛みや引っこかりが初期症状です。進行すると、安静時も痛むようになり、歩けなくなるなど日常生活が困難になってきます。

変形性関節症が最も起こりやすいのは膝です。膝は立っているだけで全体重のほとんどを支えていて、座ったり立ち上がったりするときに大きな力が加わります。加齢によって足の筋肉が衰えると、膝への負担がいつも大きくなるため、痛みを訴える人が目立ちます。

―― どのような治療法がありますか。

一般的に症状が軽いうちは、減量や膝周りの筋肉を鍛えて関節の負担を軽くしたり、ヒアルロン酸注射、鎮痛剤の服用、サポーターの装着といった保存療法が行われます。

これらの保存療法によって痛みなどの症状が良くなり、日常生活動作もままならないときは手術療法を選択します。手術はいくつかの方法がありますが、症状が進行期や末期に達している場合、最も一般的な手術は「人工関節手術」です。

―― 人工関節手術について教えてください。

変形して痛んだ膝関節の表面を取り除き、金属とポリエチレンでできた人工関節に置き換える手術です。関節の擦り減った部分だけを入れ替える術式と、全てを置き換える術式があります。人工関節手術の最大のメリットは、除痛効果に優れていることです。一度手術を受けて回復すれば、以降は痛みをほとんど忘れて生活できる可能性が高いです。

近年、人工関節は材質やデザインなどの進歩により、耐用年数の長期化が見込まれ、術後20年以上は持つとされています。生涯、人工関節の入れ替え(再置換)を必要としないケースがほとんどです。術後は、膝関節に大きな負担を与えるような動作やスポーツは控えてもらいますが、日常生活にはほとんど支障がありません。

―― 人工関節手術を支援するロボットシステムの導入が進んでいるそうですね。

道内でも少しずつ普及が進んでいます。当院では2024年6月から膝と股関節の人工関節手術を支援するロボットシステム「Mako(メイコー)」を導入し、保険診療で治療を行っています。

メイコーは事前撮影した患者さんのCT画像を基に計画した骨を切る角度や深さについて、執刀医の手の動きを誘導することによって安全かつ正確な手術を可能にするシステムです。計画から外れた角度や深さで

削ろうとすると自動停止するため、手術の失敗のリスクを限りなくゼロに近づける設備といえます。また、従来だと骨を切った後でしか分からなかった膝関節の靱帯のバランスが、骨を切る前に分かるので、術中に術前計画を微調整できるようになったことも大きな利点です。

人工関節手術は0.1ミリ単位の精密な精度が求められます。それをカバーするのがロボットで、より正確に、安全に、体に負担のかからない低侵襲手術が可能になりました。入院期間の短縮や早期社会復帰も見込めます。



執刀医は、設備の腕のようなパーツの先に取り付けた骨を切る器具を持って手術を行う

―― 最後に、膝や股関節の痛みに悩んでいる皆さんにメッセージをお願いします。

膝や股関節の健康を守ることは、いつまでも自分の足で歩き続け、健康寿命を伸ばすための大きなポイントです。痛みや違和感を「年だから」と諦めたり、「仕方ない」と我慢したりせず、一度、整形外科を受診し、自分の膝や股関節がどのような状態なのかを確かめてみてください。重症化してからでは、日常生活への影響もそれだけ大きくなるので、早く見つけて、患部の状態に合わせた適切な治療をすることが大切です。

的確な診断と治療、豊富な経験と高い技術

広告

1985(昭和60)年の開院以来、専門性と先進性を兼ね備えた高水準の整形外科医療の提供を目指し、地域医療に貢献してきました。市内外はもとより、道外から通う患者も多い。各部位の疾患を、分野別にそれぞれの担当医が診療する体制で、豊富な経験と高い技術に基づく的確な診断、治療に努めている。また、リハビリ治療にも注力しており、リハビリテーション室には理学療法士、作業療法士が在籍。患者一人一人の症状、身体能力、生活環境などに合わせたオーダーメイドのメニューを作成し、施術や運動の指導にあたっている。

「本当に手術が必要かどうか」を含め、個々の患者が治療に何を求め、今後どういった生活を望んでいるのかなどをじっくりと話し合い、本当に必要とされる医療・満足してもらえる医療の実践を心掛ける。また、患者負担の少ない低侵襲手術に力を入れ、回復が早く傷痕の小さい内視鏡・関節鏡手術や、より繊細で正確、安全性の高い手術を実現する最新の手術支援ロボットもいち早く導入している。

変形性膝関節症、変形性股関節症に対する人工関節手術の累積症例数は392例を数えます(2019年1月～23年12月)。



札幌南整形外科病院

整形外科、リハビリテーション科

麻酔科(橋本 奈己 医師)

- 住所／札幌市南区南33条西11丁目4番地1号
- 電話番号／011-581-2555
- 診療時間／月～金 9:00～12:00 13:00～17:30
土 9:00～12:00
- 休診日／日、祝日、お盆(8月15日)、年末年始
- アクセス／じょうてつバス「南33条西11丁目」下車徒歩2分
- 駐車場／62台

